



ヨークベニマル有機野菜の現状と 今後の計画について

2025年7月28日

株式会社ヨークベニマル

青果部マーチャンダイザー・小美野直之

はじめに～

ヨークベニマルが有機野菜の拡大を進めるにあたって
セブン&アイ・ホールディングスとして環境問題に本気で取り組んで
いく決意を示したグリーンチャレンジ2050の基本理念の実行

具体的に青果部としては

「有機農産物」「三ツ星農産物」の拡大

「包装資材」の削減

店舗での二酸化炭素削減と理解促進

持続可能な農産物の拡大

有機農産物生産者さんの支援

本日の報告内容

- 1, セブン&アイ・ホールディングス方針の振り返り、長期計画
- 2, 24年度取り組み報告
- 3, 25年度計画・途中経過報告

1-1 みどりの食料システム戦略から

世界状況からの日本の政策

みどりの食料システム戦略（概要）

～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～
Measures for achievement of Decarbonization and Resilience with Innovation (MeaDRI)

令和3年5月
農林水産省

現状と今後の課題

- 生産者の減少・高齢化、地域コミュニティの衰退
- 温暖化、大規模自然災害
- コロナを契機としたサプライチェーン混乱、内食拡大
- SDGsや環境への対応強化
- 国際ルールメイキングへの参画

「Farm to Fork戦略」(20.5)
2030年までに化学農薬の使用及びリスクを50%減、有機農業を25%に拡大

「農業イノベーションアジェンダ」(20.2)
2050年までに農業生産量40%増加と環境フットプリント半減

農林水産業や地域の将来も見据えた持続可能な食料システムの構築が急務

持続可能な食料システムの構築に向け、「みどりの食料システム戦略」を策定し、中長期的な観点から、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取組とカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進

目指す姿と取組方向

2050年までに目指す姿

- 農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現
- 低リスク農業への転換、総合的な病害虫管理体系の確立・普及に加え、ネオニコチノイド系を含む従来の殺虫剤に代わる新規農薬等の開発により化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減
- 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減
- 耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%(100万ha)に拡大
- 2030年までに食品製造業の労働生産性を最低3割向上
- 2030年までに食品企業における持続可能性に配慮した輸入原材料調達の実現を目指す
- エリートツリー等を林業用苗木の9割以上に拡大
- ニホンウナギ、クロマグロ等の養殖において人工種苗比率100%を実現

戦略的な取組方向

2040年までに革新的な技術・生産体系を順次開発（技術開発目標）
2050年までに革新的な技術・生産体系の開発を踏まえ、今後、「政策手法のグリーン化」を推進し、その社会実装を実現（社会実装目標）

※政策手法のグリーン化：2030年までに施策の支援対象を持続可能な食料・農林水産業を行う者に集中。
2040年までに技術開発の状況を踏まえつつ、補助事業についてカーボンニュートラルに対応することを目指す。
補助金拡充、環境負荷軽減メニューの充実とセットでクロスコンプライアンス要件を充実。

※革新的技術・生産体系の社会実装や、持続可能な取組を後押しする観点から、その時点において必要な規制を見直し。
地産地消型エネルギーシステムの構築に向けて必要な規制を見直し。

ゼロエミッション
持続的発展

期待される効果

経済 持続的な産業基盤の構築 ・輸入から国内生産への転換（肥料・飼料・原料調達） ・国産品の評価向上による輸出拡大 ・新技術を活かした多様な働き方、生産者のすそ野の拡大	社会 国民の豊かな食生活 地域の雇用・所得増大 ・生産者・消費者が連携した健康的な日本型食生活 ・地域資源を活かした地域経済循環 ・多様な人々が共生する地域社会	環境 将来にわたり安心して暮らせる地球環境の継承 ・環境と調和した食料・農林水産業 ・化石燃料からの切替によるカーボンニュートラルへの貢献 ・化学農薬・化学肥料の抑制によるコスト低減
---	---	--

アジアモンスーン地域の持続的な食料システムのモデルとして打ち出し、国際ルールメイキングに参画（国連食料システムサミット（2021年9月）など）

1-2 地球温暖化による未来予想

- ・2100年まで平均気温が4度上昇、日本の熱帯化
夏は40度超え、食料不足、水の枯渇、作物の収穫量減(日経新聞25/7/13掲載)
自給率の低下により、飢餓の蔓延
- ・温暖化により食料の奪い合い、戦争の発生
(長期にわたるロシア、ウクライナ戦争は何をもたらしたか・・・)
- ・水が最も希少な資源になる
水が石油よりも貴重になり、水をめぐる戦争(エジプト・パキスタンのダム問題)
深刻な不足、パキスタン、インド、中国(すべて核保有国)

◎これからのテーマ

- ・いかに二酸化炭素の排出量を削減し、環境問題に取り組むか
積極的に有機農産物に取り組み、農薬使用の削減
- ・環境に対応したテクノロジーの開発(農業分野)

1-3 セブン&アイ・ホールディングス グループ方針

改定日 2021年 5月

目指す姿	具体的な取組	2030年の目標	2050年の目指す姿
脱炭素社会	CO2排出量削減	グループの店舗運営に伴う排出量50%削減（2013年度比）。	グループの店舗運営に伴う排出量実質ゼロ。
		自社の排出量（スコープ1+2）のみならず、スコープ3を含めたサプライチェーン全体で削減を目指す。	
循環経済社会	プラスチック対策	オリジナル商品（セブンプレミアムを含む）で使用する容器は、環境配慮型素材（バイオマス・生分解性・リサイクル素材・紙、等）50%使用。	オリジナル商品（セブンプレミアムを含む）で使用する容器は、環境配慮型素材（バイオマス・生分解性・リサイクル素材・紙、等）100%使用。
		プラスチック製レジ袋の使用量ゼロ。使用するレジ袋の素材は、紙等の持続可能な天然素材にすることを目指す。	—
	食品ロス・食品リサイクル対策	食品廃棄物を発生原単位（売上百万円あたりの発生量）50%削減（2013年度比）。	食品廃棄物を発生原単位（売上百万円あたりの発生量）75%削減（2013年度比）。
		食品廃棄物のリサイクル率70%。	食品廃棄物のリサイクル率100%。
自然共生社会	持続可能な調達	オリジナル商品（セブンプレミアムを含む）で使用する食品原材料は、持続可能性が担保された材料50%使用。	オリジナル商品（セブンプレミアムを含む）で使用する食品原材料は、持続可能性が担保された材料100%使用。

有機、特裁、三ツ星
農薬、包材使用

有機・GAP対象

1-4 YBが目指す有機農産物計画

- ・環境配慮に取り組み、未来の豊かな日本を守りたい
- ・出来るだけ「安全で美味しい」農産物を拡大したい

◆目指す取り組みプラン

①持続可能な生産、販売、消費活動

出店県別に「YB版オーガニックビレッジ」構想
県別に生産者との組織活動

生産者と共同イベント企画（店舗販売企画）

②2030年までに「有機農産物」取り扱い店拡大 店舗販売規模、マーケットで決定

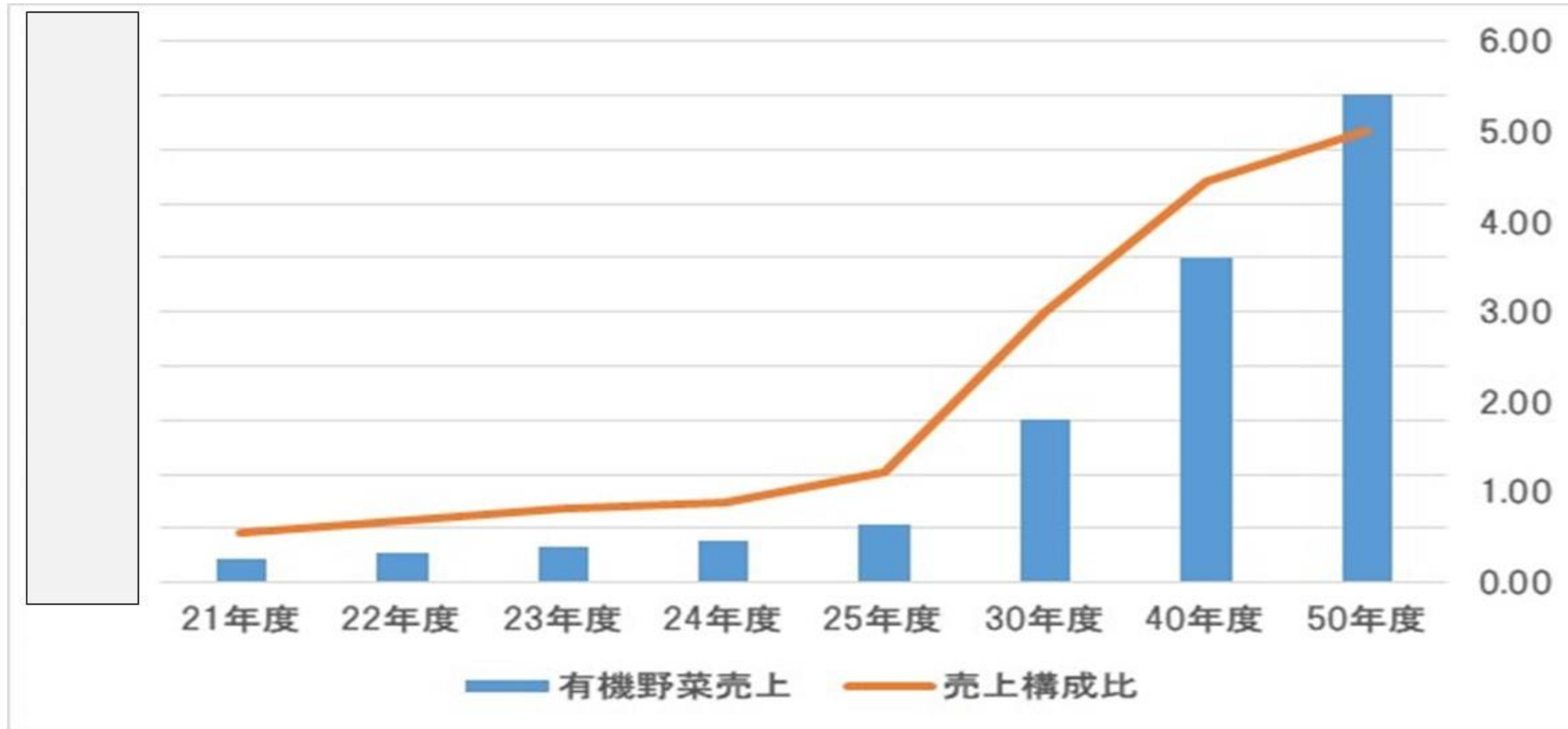
③2050年取り扱い金額目標

野菜内売上構成5%、金額目標 億

1-5 有機農産物長期売上計画(野菜計画)

2050年度を目標に、売上構成5.0%、 億を達成する為に
2030年度売上構成3.0%、2040年度売上構成比4.4%を目標に取り組みを実施

※花抜き構成比



年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	30年度	40年度	50年度
有機野菜売上								
売上構成比	0.56	0.69	0.82	0.90	1.22	3.00	4.46	5.00

1, マーケット状況、方針の振り返り、長期計画

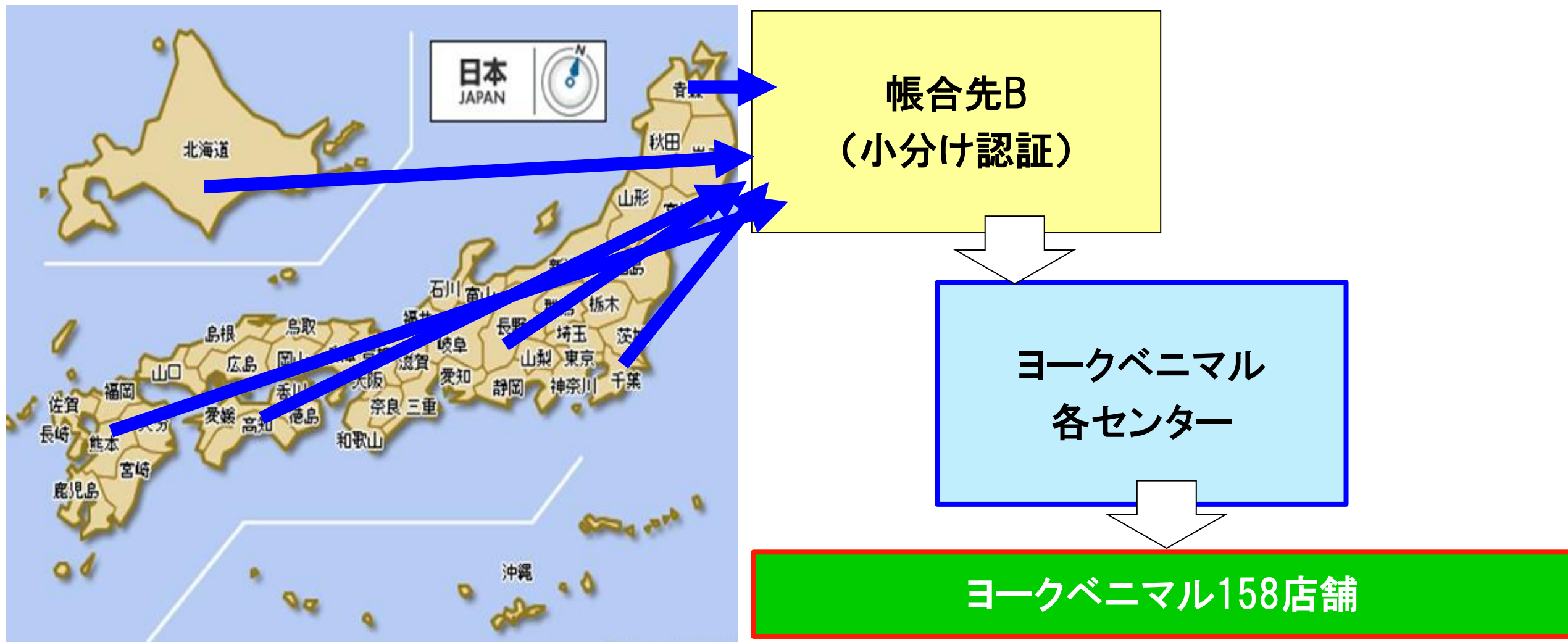
2, 24年度取り組み報告

3, 25年度計画・途中経過報告

ヨークベニマルの集荷体制について

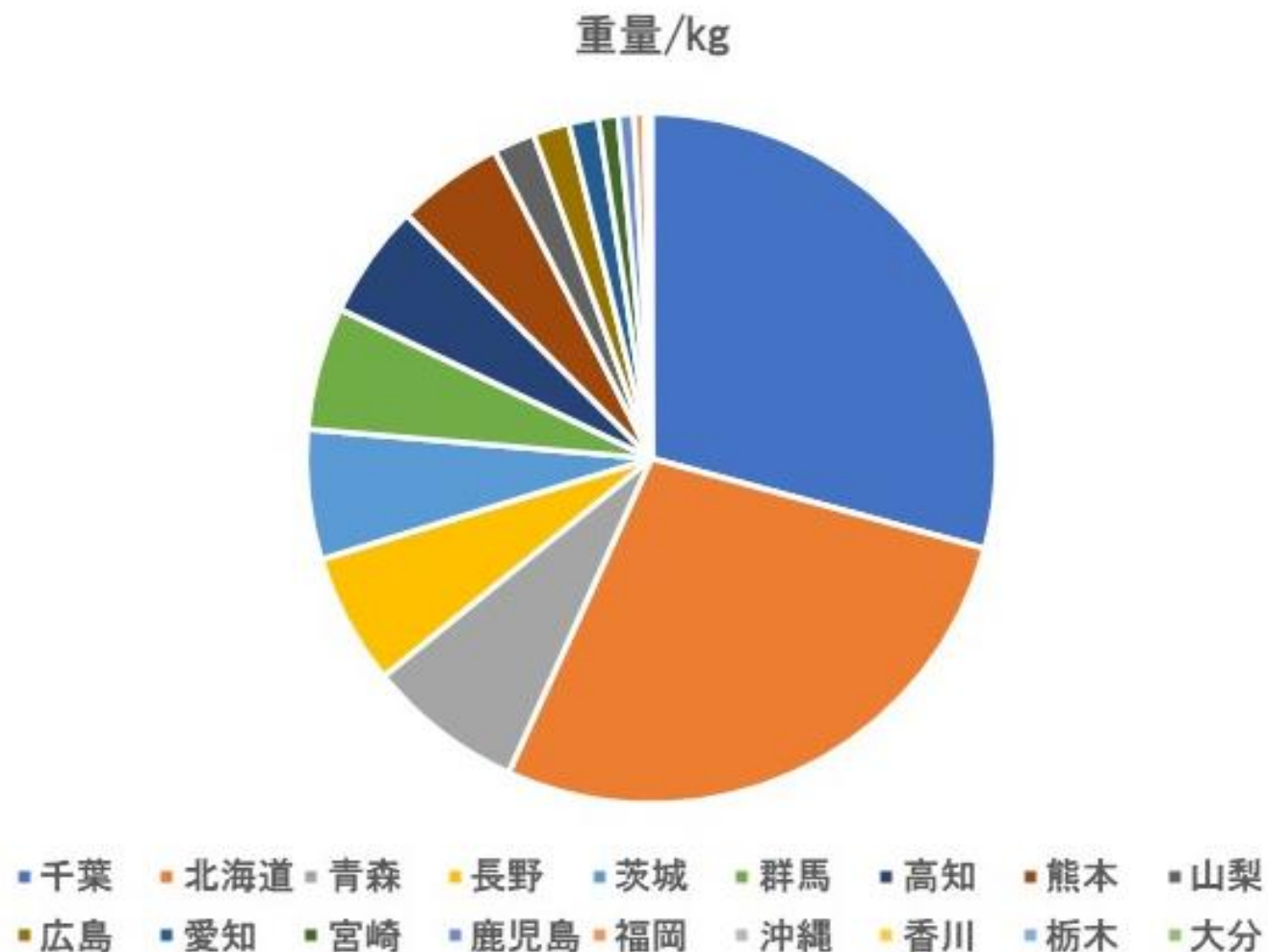
2-1 有機野菜取り扱い店舗全店を対象に納品

- ・日本全国から有機野菜を集荷し小分け箱詰めをしてもらい出荷
- ・現在250店舗中158店舗に納品、展開している



2-2 有機野菜取り扱い店舗全店を対象に納品

- ・セントラルで納品している有機野菜の産地構成は千葉県、北海道、青森県、長野県と続く



2-3 有機野菜品目別売上構成比

品目	構成比	品目	構成比
小松菜	18.8	大葉	1.9
ほうれん草	13.6	根生姜	1.8
人参	6.9	大根類	1.7
じゃが芋	5.7	なす	1.6
香草類	5.5	オクラ・ゴーヤ等季節野菜	1.4
レタス・サラダセット	4.7	アスパラガス	1.2
玉ねぎ	4.6	里芋	1.1
春菊・つるむらさき・モロヘイヤ等	4.6	ねぎ	1.1
ベビーリーフ	4.3	ごぼう	1.1
トマト類	3.9	さや・いんげん・とうもろこし等	1.0
水菜	2.7	きゅうり類	0.9
キャベツ・ケール	2.3	さつま芋	0.9
ピーマン	2.3	長芋	0.8
南瓜・ズッキーニ	2.0	にんにく	0.8

2-4 有機野菜取り扱い店舗全店を対象に納品

- ・お取引先様とチームを組み、全国から有機野菜を集荷してもらい
小分けし、詰め合わせBOXとして各店へ納品



2-5 有機野菜展開例

- ・売場展開の実現「プロパー」「平台」2パターンに絞りながら店舗拡大
- ・今後の展開をどうしていくかも課題のひとつ



ヨークベニマルの福島県の取り組み

2-6 24年度取り組み報告

- ・産地へお邪魔しながら打ち合わせを重ね意見交換の実施
- ・圃場へ行き生産の苦労等、現地で確認 定例会実施



2-7 24年度取り組み報告

食でつむぐ、幸せの場所。



- ・「商品規格書」の作成 現地で実際に商品を確認しながら1品1品決める
- ・発売する商品は必ず商品写真、商品規格を決定してから販売する

◎福島県産有機野菜(旬菜ファーム)一覧



4/28追加 品名 有機サラダブーケ 売価(本体) 298 円	5/6追加 品名 有機小松菜 売価(本体) 228 円	5/22追加 品名 有機水菜 売価(本体) 178 円	6/2追加 品名 有機玉ねぎ 売価(本体) 248 円	6/26追加 品名 有機ビーツ 売価(本体) 298 円
---	---	---	---	--

◎福島県産有機野菜(二本松有農研)一覧



7/11更新 品名 有機きゅうり 売価(本体) 178	7/11更新 品名 有機ピーマン 売価(本体) 178	7/11更新 品名 有機茄子 売価(本体) 198	7/11更新 品名 有機玉ねぎ 売価(本体) 248	7/11更新 品名 有機平さやいんげん 売価(本体) 198
---	---	---------------------------------------	--	--

基本年間契約、売価・原価固定だが相場を確認しながら内容量で調整している

規格 150g ラディッシュまたは人参 葉物6種類のうち3種類 小松菜わさび菜マスタードリーフ ほうれん草スイスチャードケール 商品コード 4560284847099	規格 150g 3株以上を基本 柔らかい時期は180g 目安25cm前後 商品コード 4560284847211	規格 100g 生育不良時短いのは 入れない 長いのも× 目安25cm以上30cm未満 商品コード 4560284847259	規格 600g 2〜3コ 商品コード 4560284847105	規格 300g 1コ 商品コード 4560284847082	規格 240gUP3本 商品コード 4560284846573	規格 150g 商品コード 4560284846597	規格 300g 商品コード 4560284846566	規格 500g 商品コード 4560284846658	規格 100g 商品コード 4560284848041
--	--	---	--	--	--	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------

2-8 各グループと産地カレンダー作成

- 各グループから産地カレンダーをまとめ、共有
多い商品、少ない商品等まとめながら長期的に確認していく

2025年 ヨークベニマル様向け有機野菜年間カレンダー

有機野菜年間出荷商品			品目別、月別出荷計画										二本松地区		2025	2024
名前と商品	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	(a)	(a)		
人参													150	150		
キュウリ													55	55		
ほうれん草													39	20		
長ネギ													45	25		
玉ねぎ													43	38		
サニーレタス													33	10		
インゲン													32	8		
さやえんどう													31	10		
スナックエンドウ													31	11		
里芋													30	30		
ピーマン													22	18		
カブ													32	3		
オクラ													26	20		
オータムボエム													25	10		
茄子													22	20		
じゃがいも													20	3		
大根													17	17		
小松菜													16	7		
レタス													12	6		
トマト													12	11		
春菊													11	10		
白菜													11	11		
キャベツ													11	11		
赤玉ねぎ													10			
ミニトマト													10	10		
こごみ													10	10		

2025年 ヨークベニマル様向け有機野菜年間カレンダー

有機野菜年間出荷商品	品目別、月別出荷計画												旬彩ファーム様		2025年度	2024年度
名前と商品	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	(a)	(a)		
人参（アロマレッド）													1,000	500		
人参（カラフル人参）													200	100		
人参（京くれない）													100	30		
サラダかぶ（赤/白）													300	300		
玉ねぎ													400	300		
ピーマン													60	60		
つるむらさき													10	5		
里芋													200	100		
紅芯大根													100	100		
カーリーケール													100	50		
おかひじき													40	10		
旬彩サラダセット													1,000	500		

2-9 出荷量を増やす取り組み

- ・新規生産者さんの支援
- ・2年前から転換期間中の圃場からスタートしYBとの取り組みを理解してもらっていた
- ・今期から有機認証取得し取り組み開始



2025年 ヨークベニマル向け有機野菜年間カレンダー															
有機野菜年間出荷商品		品目別、月別出荷計画													
	名前と商品	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	生産者	反別
1	ラデッシュ													有農研	3a
2	レタス													有農研	6a
3	サニーレタス													有農研	8a
4	スティックセニョール													有農研	1a
5	スイスチャード													有農研	3a
6	かぶ													有農研	14a
7	春菊													有農研	7a
8	人参													有農研	40a
9															
10	絹さや													土の絆	6a
11	スナックエンドウ													土の絆	6a
12	ピーマン													土の絆	5a
13	茄子													土の絆	3a
14	米ナス													土の絆	4a
15	水なす													土の絆	4a
16	甘長とうがらし													土の絆	1.3a
17	ツルムラサキ													土の絆	0.5a
18	オクラ													土の絆	6a
19	いんげん													土の絆	12a
20	長ネギ													土の絆	15a
21	ほうれん草													土の絆	4a
22	小松菜													土の絆	4a
23	オータムボエム													土の絆	15a
24	サニーレタス													土の絆	15a
25															8a
26															
27															3a
28															2a
29															10a
30															10a
31	にんにく													申請中	0.5a

24年と25年の比較29品目増

2-10 出荷量を増やす取り組み

- ・新規就農者の支援
- ・有機野菜を勉強し独立を目指している
- ・YBとの取り組みを研修で学びながら理解し安心して独立できる支援が出来ている



2-11 福島県取り組み報告

◎ヨークベニマルオーガニックビレッジ構想の実現



- ・二本松2グループは軌道に乗り始め
生産者さんとのコミュニケーション、
安定した供給が実現できている
- ・白河の旬彩ファームとの取り組みが
弱かった 売上納品との区別課題
- ・喜多方市は高橋SV中心に会議出席
25年度から始動
- ・会津若松市は協議会のメンバーで
10月設立総会実施予定
- ・永島さんは24年度からスタートし
徐々に拡大中 25年計画確認
- ・檜葉晃ファームは25年度へ向けて準備

2-12 福島県取り組み報告

各産地の生産者様をグループ化し集荷を実施

帳合先A様に小分け認証を取得してもらい詰め合わせにし各店舗に納品

生産者グループA

帳合先A
(小分け認証)

生産者グループB

この取り組みを
各地区に拡大する計画

ヨークベニマル
郡山センター
いわきセンター

生産者グループC

福島県内店舗 78店舗

2-13 各エリア取り組み報告

食でつむぐ、幸せの場所。



2-2 24年度取り組み報告(山形県)

門脇エリアMD



- ・川西町オーガニックビレッジ宣言を23年にしたと思うように進まない
シゴボッチャ井上さんと協議
- ・米沢市川西町同様の宣言
チバサンファームスタート
- ・置賜産直センター(丸勘帳合)
ラベル統一し11月からスタート
- ・高島市も川西町同様
米が主体で野菜が無い 協議必要
- ・山形市も23年に宣言
市としても力をしているので可能性としては高い 西蔵王地区
帳合JAが入るので丸勘との調整必要
- ・新庄市24年宣言都市
新庄丸果中心に情報収集依頼

2-3 24年度取り組み報告(宮城県)

門脇エリアMD



- ・栗原市24年宣言都市
米中心で野菜がなく進んでいない
- ・登米市24年宣言都市
米中心で野菜が少ないが市としての
取り組みが強い為期待できる産地
- ・大崎市24年宣言都市
米優先に有機認証を進めている
JA古川との取り組み GAPも並行する
- ・大郷町 宣言なし
副町長が県農政部長経験者
町として今後協力したい意向強い
- ・加美町24年宣言都市
リロカリコクリ株式会社、大友ファーム
共に無農薬栽培だがJAS認証なし
町の支援要望しながら進める

2-4 24年度取り組み報告(栃木県)

佐藤エリアMD



- ・小山市 23年宣言都市
市として有機野菜に力を入れている
JAS認証取得していない農家多い
- ・市貝町 23年宣言都市
町から生産者紹介あり
JAS認証取得していない農家多い
- ・塩谷町 23年宣言都市
町では長期計画持っているが
米主体の学校給食 継続商談必要
- ・スノハウス 那須地区3店舗
サラダセットのみでスタート 商談必要
- ・ベジファーム 23年度からスタート
昨年は作柄不良で出荷無し
再度生産計画共有しながら
ベジコブ帳合で進める

2-5 24年度取り組み報告(茨城県)

佐藤エリアMD



- ・笠間市 24年宣言都市
米で学校給食スタート
野菜も学校給食主体で進めている
- ・石岡市 24年宣言都市
JAやさと中心に商談実施
ベジコブ帳合でスタート
- ・ヴァレンシア(笠間市)、HATAKE(つくば市)
農流研(小美玉市)
3社バラバラで取り組みを実施
今後どのようにまとめるかが課題
- ・茨城県は各市町村の動きも早まる
予測 常陸大宮はリーダー的な
動き 今後注視必要
- ・茨城県は生産量が多いので
全社供給のポイント産地になる

2-14 24年度取り組み報告(九州地区からの集荷)



出店エリアごとにYB版
オーガニックビレッジ構想を
実現させるように進める一方で
全国からの集荷も実施
「五十鈴・有機のこれからを耕す会」と
取り組み、
鹿児島県産新じゃが芋を販売
店舗から好評の意見あり
次年度は更に拡大販売する
計画を持つ
じゃが芋以外に南瓜、長芋等拡大する
計画を持つ

2-15 ヨークベニマル売上No1つくば竹園店の展開



- ・地場野菜に近い場所で展開
- ・目立つ場所で展開されている
- ・客層とすれば健康志向のお客が多く普段の生活でも有機・三ツ星の需要が多い



1, マーケット状況、方針の振り返り、長期計画

2, 24年度取り組み報告

3, 25年度計画・途中経過報告

3-1 25年度有機野菜計画

◎25年度目標売上金額(野菜)

円 昨年比140.2% 野菜(花抜き)構成比1.22%

◎展開拡大計画

福島県内は全店展開へ 今年のチャレンジは旬彩ファーム
二本松の仕組みが出来た事で県内産有機野菜は全店品揃え実施
各県ではオーガニックビレッジ宣言都市付近店舗の品揃えスタート

◎販促計画

「みえるらべる」の取り組み拡大
水煮やきのこ、カットサラダの販売
有機野菜有人販売の計画

◎各地区有機野菜取り組み強化

各県、各地区での取り組みをエリアMD、SVと進める ここが一番大切
BC商品の販売の仕方含め検討必要(小分け認証帳合先必須)

3-2 25年度計画(福島県会津エリア)

高橋SV連動



・二本松グループ

「見える化ラベル」の進行 2月には申請を確認し進める
カレンダーの細分化し昨年比を確認
安定供給を目標に定期会議実施しながら進める

・旬彩ファーム

25年度再度入り込み協力体制を構築する
量は持っているので県内全店品揃えする時には必要
有人販売等では有機野菜の認知を高める「みえるらべる」も共有

・喜多方市

24年12月から有機米の小中学校給食の提供スタート
25年は具体的な産地稼働喜多方市の活動計画に合わせた準備
帳合「若武商店」の小分け認証取得から集荷組織作り

・会津若松市

若武商店に会津ゾーンの集荷を集約しながらあさかのFreshと連携
分荷表も統一しながら対応していきたい
丸果を入れずに若武と「あいづ有機農法生産組合」直接取引検討
◎会津地区はZMや店長の協力必要あり(市の協議会)

・永島オーガニックファーム

25年生産計画の確認
継続的支援必須
若手生産者の紹介も検討

・楢葉晃ファーム

25年生産計画の確認
いわき店舗直納での取り組み
あさかのFresh帳合

3-3 25年度計画(山形県)

門脇エリアMD連動

食でつむぐ、幸せの場所。



山形県 **大蔵村・蔵王チャンスあり**
山形県全体の有機情報の収集、
県イベントの紹介、YBの店舗
イベント企画については
支援体制もあり
有機認証機関としての役割、
今後の拡大について25年度も
情報収集必要

・川西町

協議がストップしているので再開必要
生産者リーダー「ジゴボッチャ」さんと確認
有機認証取得に向けて年数をかけても
準備は必要、長井中央さんと継続確認

・米沢市

毎年米沢市の有機イベントの開催が有り、
今後情報交換をして開催に参加する必要あり

・チバサンファーム

24年度から本格的スタート
秋作土物(玉ねぎ・さつまいも・人参等)山澤さん商品開始
長井中央の集荷も連携、今年の夏場商品拡大の可能性確認

・山形置賜産直センター(丸勘帳合)

人参、里芋、大根、ねぎ、かぶと昨年より品種は増えるが生産量は少ない
山形市内から北地区に出荷、置賜地区との扱い店舗のバランス、ダブりの改善
25年度以降も量は変わらないと予測、継続維持必要、新規生産者の拡大課題

・高畠町

YBで取り組むためには有機JAS認定の推進と町の理解、若手育成の支援必要

・新庄市 山形北地区の産地開発では重要ポイント、25年再度取組確認必要

3-4 25年度計画(宮城県)

門脇エリアMD連動

食でつむぐ、幸せの場所。



・栗原市

継続してスタートまでの情報交換の必要あり
米が主体で加工食品部との連携必要あり

・登米市

市としての取組、政策は明確になっている 25年度は具体的な実行政策について情報交換をしながら有機産地、品目作りの支援活動必要
YBもZMを入れて情報共有の場が必要

・大崎市

継続して進捗、情報共有、野菜の産地作りの依頼確認(米が主体)
現状地場野菜で大変お世話になっている

・大郷町

非常に好意的 大郷地区に有機を扱う「グリーンファーマーズ」有り、
現在生協、大郷道の駅に出荷デイリーポートにも入っている為
情報の共有も必要

・加美町

米主体 今後のテーマとしては野菜は必須 26年以降か JAが動けば◎

・大友ファーム(加美町)

現在有機JAS認証取得はしていないが、今後条件によっては考えている

・リロカリコクリ株式会社(加美町)

定期的に仙台ランチに出品し
農薬不使用野菜の販売
有機認証は現在取らない方向

3-5 見える化ラベルの取り組み

- 消費者に環境への負荷の低減が図られた農産物を選択してもらえるよう、「温室効果ガスの削減への貢献度合い」と「生物多様性保全への配慮」を星の数でラベル表示する「見える化」を進めています。

栽培方法	対象品目
露地栽培のみ	米(乾燥調製されたもの)、ほうれんそう、白ねぎ、たまねぎ、はくさい、キャベツ、レタス、だいこん、にんじん、アスパラガス、ばれいしょ、かんしょ、りんご、日本なし、もも、茶(荒茶加工されたもの)
施設栽培のみ	ミニトマト、いちご
両栽培方法とも対象	トマト、きゅうり、なす、温州みかん、ぶどう



✓ 温室効果ガス削減への貢献

- 栽培情報を用い、生産時の温室効果ガス排出量を試算し、地域の慣行栽培と比較した削減貢献率を算定。

$$100\% - \frac{\text{対象生産者の栽培方法での排出量(品目別)}}{\text{地域又は県の標準的栽培での排出量(品目別)}} = \text{削減貢献率(\%)}$$

- ★ :削減貢献率5%以上
- ★★ :削減貢献率10%以上
- ★★★:削減貢献率20%以上



✓ 生物多様性保全への配慮 ※米に限る

- 生物多様性保全の取組の得点に応じて評価し、温室効果ガスの削減貢献と合わせて等級表示。

- ★ :取組の得点1点
- ★★ :取組の得点2点
- ★★★:取組の得点3点以上

<取組一覧>

化学農薬・化学肥料の不使用

2点

有機農業

環境負荷低減の取り組み

「みえるらべる」

農業者の温室効果ガス削減や生物多様性保全の努力を星の数で表示する

持続可能な未来の為に「見える化」ラベル(愛称:みえるらべる)

目印に環境配慮して生産された農産物

現状対象品目は23品目

野菜は15品目

生物多様性保全は「水稻」のみ

温室効果ガス削減で進める

3-6 25年度計画(オーガニックビレッジ宣言都市)

YB出店エリアの「オーガニックビレッジ宣言都市」

宣言を行い、有機農産物や特産品の販路拡大に積極的に取り組んでいる都市

福島県② 喜多方市、二本松市

山形県⑦ 米沢市、鶴岡市、新庄市、川西町、高畠町、山形市、酒田市

宮城県③ 登米市、大崎市、栗原市

栃木県④ 市貝町、小山市、塩谷町、栃木市

茨城県③ 常陸大宮市、石岡市、笠間市

上の市町村と積極的なコミュニケーションを図り

生産者、商品の開発を行っていく

現在、栃木県の3市町とは定期的に商談や講演に参加している

23年度93市町村⇒24年度124市町村(+31市町村)に急拡大している

国の目標は2030年で200市町村

3-7 25年度計画(店舗拡大計画)

福島県は全店を計画(78店舗+西ノ内で79店舗)

4県についてはオーガニックビレッジ宣言都市付近の店舗で拡大を計画する

◎宮城県(11店舗 45/68店舗)

登米市

栗原市

大崎市

加美町

他仙南ゾーン店舗の拡大

宮城県で新規11店舗拡大

◎山形県(6店舗 14/22店舗)

米沢・南陽市

山形県で新規6店舗拡大

◎栃木県(5店舗 27/38店舗)

市貝町、小山市、塩谷町

栃木市

栃木県で新規5店舗拡大

◎茨城県(3店舗 28/42店舗)

石岡市・笠間市

常陸大宮市

茨城県で新規3店舗拡大

3-8 有人試食販売報告

- ・5月18日(日)ヨークベニマル西ノ内店で生産者さん自ら試食販売を実施
- ・販売する事が一番の目的だが有機野菜を知ってもらう取り組みとして実施



3-9 有人試食販売報告

- ・有機野菜サラダセットを主力にほうれん草、小松菜、水菜、ラディッシュ、おかひじきなど試食販売を実施



3-10 みえるらべる商品の販売事例



環境にやさしい農産物
 農林水産省では環境負荷低減の取組の「見える化」を推進しています。

こちらのラベルが目印です

★★ 温室効果ガス削減

温室効果ガス削減への貢献

- ・化学農薬、化学肥料の低減
- ・化石燃料の削減
- ・堆肥やバイオ炭の施用等

削減貢献率
 5%以上：★
 10%以上：★★
 20%以上：★★★

地域の慣行削減率と比較した温室効果ガス排出量の削減貢献率を算出し、等級を確定

★★★ 温室効果ガス削減 生物多様性保全 ★

生物多様性保全への配慮

- ・化学農薬、化学肥料の低減
- ・冬期湛水
- ・魚の保護等

取り組みの得点
 1点：★
 2点：★★
 3点以上：★★★

温室効果ガス削減に加え、生物多様性の保全の取組の両方に応じて評価し、等級を確定



3-11 みえるらべる商品の販売事例



現在

- ・生産者数 2名
- ・品目数 5品目

今後

- ・3名、2品目増計画

課題

・品目

登録できる品目数が限られていて
生産者さんからの品目増の要望あり

・手続きの簡素化

パソコンが苦手な生産者さんが多く
手続きの簡素化が必要

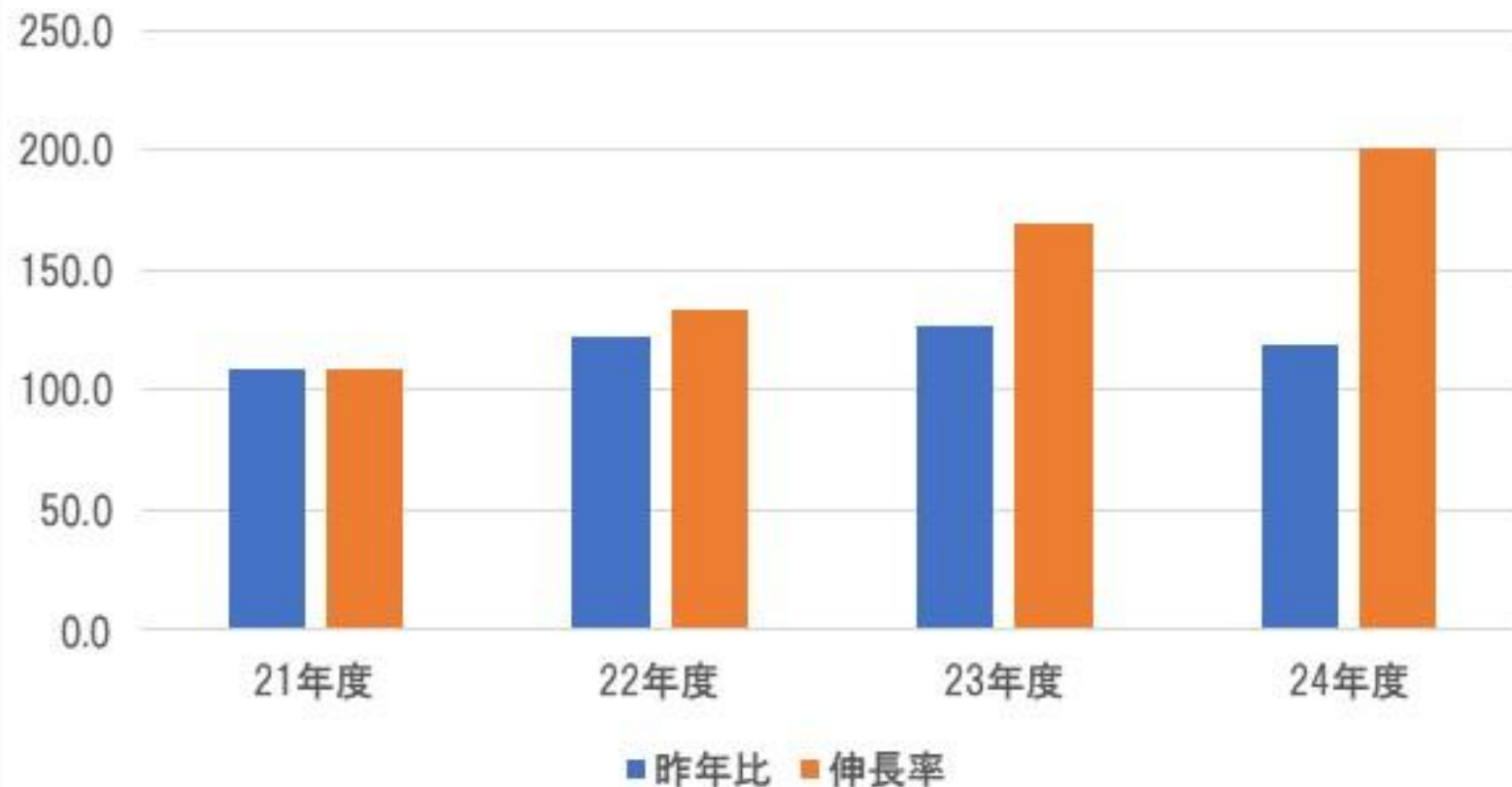
・資材の支援

継続して支給してもらえる体制作り
が必要

3-12 お客様の有機野菜購買量

	21年度	22年度	23年度	24年度
昨年比	109.2	122.6	126.7	118.6
伸長率	109.2	133.9	169.6	201.2

年別売上昨年比・伸長率推移



- ・ヨークベニマルの有機野菜
売上推移は4年間で約2倍
- ・地域別では都市部店舗
つくば市や仙台市、地方でも
郡山市、福島市中心部が伸長
- ・年代では子供がいる年代と
高齢者の購入頻度が高い
- ・購入品目としては葉物野菜、
土物野菜、サラダ野菜が多く
生活に密着した野菜が
購入頻度が高い

以上で報告を終了します